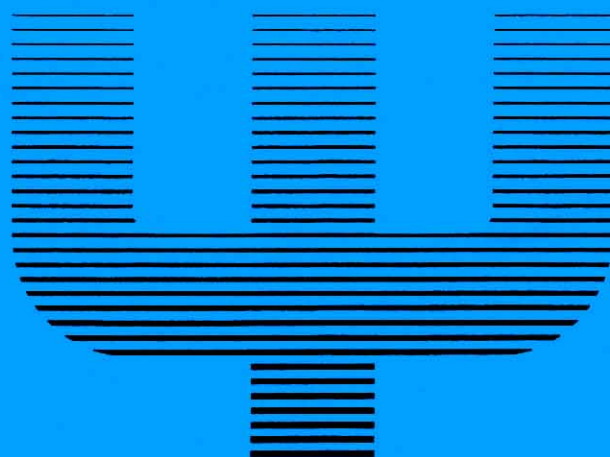


調査研究報告書 No.125-2
2004



職業訓練コースの設定、運営に係るプロセス管理

— 訓練コース検討部会における検証結果 —

独立行政法人雇用・能力開発機構

職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター

職業訓練コースの設定、運営に係るプロセス管理

— 訓練コース検討部会における検証結果 —

独立行政法人雇用・能力開発機構

職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター

はじめに

現在、生産現場の海外流出や経済全体のデフレ化、競争の激化による事業の再編や縮小など日本を取り巻く社会情勢は非常に厳しいものとなっている。それに合わせて、企業が求める人材ニーズも多様化、高度化しており、職業能力開発の果たす役割は今まで以上に重要になってきている。

一方、職業能力開発事業に対する要望の多様化により、社会ニーズにマッチした訓練コースの設定や訓練効果の明確化など、具体的な効果や成果に対する説明責任が求められている。このような環境の中、多様化する職業訓練のニーズに的確かつ迅速に応えながら適正な顧客満足度の維持・向上を目指した職業訓練の実施や信頼性と品質のより一層の向上を確保するためには公共職業訓練においても実施プロセスの各段階における適正な管理が必要となっている。本年度、この管理手法として職業訓練のコース設定、運営に係る「プロセス管理手法」の確立のための調査研究を行った。

本調査研究では、公共職業訓練のうち在職者訓練における新規訓練コースの設定に重点をおき、プロセス管理手法の検証を実施した。具体的には「環境対策とIT化された21世紀型住環境の創造」をメインテーマに掲げ、新たな雇用の創出が見込まれる分野を対象に産学官のメンバーで構成される委員会で新規訓練コースのカリキュラムを開発した。

本報告書が、今後の在職者訓練を企画する際のニーズの把握から訓練コースの設定、モデルカリキュラムの設定までの一連の流れにおけるプロセス管理手法の一例として活用されれば幸いである。

なお、本調査研究にあたり、ご協力いただいた委員の方々に心よりお礼申し上げます。

2004年3月

職業能力開発総合大学校

能力開発研究センター

所 長 池 本 喬 三

目 次

第1章 プロセス管理に基づく訓練コースの検討

第1節 プロセス管理について	1
1-1 背景	1
1-2 概要	1
(1) プロセス管理手法(案)のプロセス	2
(2) プロセス管理手法(案)検討時の留意点	2
(3) プロセス管理手法(案)に基づく試行・検証	3
第2節 生涯職業能力開発体系について	4
2-1 生涯職業能力開発体系とは	4
2-2 生涯職業能力開発体系活用の利点	5
2-3 生涯職業能力開発体系に基づく人材育成の流れと支援ツール	5
2-4 人材育成ニーズと生涯職業能力開発体系	6
2-5 生涯職業能力開発体系を活用した訓練コースの提案	8
2-6 職務分析モデル体系の種類	9
第3節 訓練ニーズが期待されるテーマの検討	10
3-1 目的	10
3-2 試行時の留意事項	10
3-3 訓練コース検討部会	11
3-4 新規訓練コース設定の対象分野	11
(1) 検討部会委員構成	11

第2章 テーマ別検討結果

(新エネルギー)

第1節 省エネルギー	17
1-1 訓練ニーズの把握	17
1-2 現状及び将来像	17
1-3 市場規模の予測	19
1-4 雇用規模の予測	19
1-5 現場からの提言	20
(1) 普及の見通し	20
(2) 予想される仕事と必要な資格	21
(3) 教育訓練としての問題点	22

1-6	実施訓練分野の選定	24
(1)	職務構成	24
(2)	職務分析	26
1-7	訓練カリキュラムの設定	27
第2節	燃料電池	49
2-1	訓練ニーズの把握	49
2-2	現状及び将来像	49
2-3	市場規模の予測	50
2-4	雇用規模の予測	50
2-5	現場からの提言	51
(1)	燃料電池の普及の見通しと課題	51
(2)	家庭用燃料電池の導入に伴う仕事について	52
2-6	実施訓練分野の選定	54
(1)	職務構成	54
(2)	職務分析	54
2-7	訓練カリキュラムの設定	54
	(住環境のIT化)	
第3節	IT家電(宅内ネットワーク)	65
3-1	現状及び将来像	65
(1)	爆発的に伸びるブロードバンド回線利用者	65
(2)	電気通信事業者の現況	66
3-2	市場規模の予測	68
3-3	雇用規模の予測	70
3-4	現場からの提言	73
3-5	実施訓練分野の選定	74
(1)	職務構成	74
(2)	職務分析	76
3-6	訓練カリキュラムの設定	76
第4節	IT家電(組込、ITS)	85
4-1	現状及び将来像	85
(1)	住環境IT化の動きと当該分野の関係について	85
(2)	デジタル家電の現状と将来像	86

(3) ITS（高度道路交通システム）の現状と将来像	87
(4) 組込み技術の現状と将来像	89
4-2 市場規模の予測	90
4-3 雇用規模の予測	93
4-4 現場からの提言	94
(1) 開発製造現場における現状と今後についての総論	94
(2) 個別動向における検討	95
4-5 実施訓練分野の選定	98
(1) 職務構成	98
(2) 職務分析	100
4-6 訓練カリキュラムの設定	100
(1) IT家電（組込）	100
(2) IT家電（ITS）	100
第5節 ホームセキュリティ	115
5-1 訓練ニーズの把握	115
5-2 現状及び将来像	115
(1) 大手住宅メーカー	116
(2) 大手警備会社	116
5-3 市場規模の予測	117
5-4 雇用規模の予測	118
5-5 現場からの提言	119
(1) 就職先のイメージ	119
(2) セキュリティに関する職務	120
(3) セキュリティに関する職務に必要な職業能力	120
(4) 普及の見通しと課題	121
5-6 実施訓練分野の選定	122
(1) 職務構成	122
(2) 職務分析	122
(居住空間の環境改善)	
第6節 健康住宅	127
6-1 現状及び将来像	127
6-2 市場規模の予測	127
6-3 雇用規模の予測	128

6-4	現場からの提言	130
(1)	高齢者介護と住宅の形態のあり方	130
(2)	福祉住宅建設について	130
(3)	今後必要とされる人材とセミナー展開	130
6-5	実施訓練分野の選定	131
(1)	職務構成	131
(2)	職務分析	131
6-6	訓練カリキュラムの設定	132
第7節	耐震改修・設計	137
7-1	現状及び将来像	137
7-2	市場規模の予測	137
7-3	雇用規模の予測	138
7-4	現場からの提言	139
7-5	実施訓練分野の選定	140
(1)	職務構成	140
7-6	訓練カリキュラムの設定	141
(環境に配慮したものづくり)		
第8節	3R(リデュース・リユース・リサイクル)	145
8-1	訓練ニーズの把握	145
8-2	現状及び将来像	145
8-3	市場規模の予測	148
8-4	雇用規模の予測	150
8-5	現場からの提言	151
(1)	家電業界	151
(2)	自動車業界	152
(3)	学識経験者	152
(4)	現場からの提言まとめ	152
(5)	委員会を通じて得た情報一覧	153
8-6	実施訓練分野の選定	155
(1)	職務構成	155
(2)	職務分析	157
8-7	訓練カリキュラムの設定	157